

アウクスブルクでの 10 日間

北口 采香

Contents

1. 応募のきっかけ
2. いざ、ドイツへ
3. 市表敬訪問
4. プッペンキステ
5. 市立新図書館
6. ダッハウ強制収容所
7. ヴィース教会
8. ノイシュヴァンシュタイン城
9. ドイツ・ボードゲーム
10. 歴史的給水施設
11. 送別会
12. ホストファミリーとの 1 日
13. レッカー（おいしい）！

応募のきっかけ

私はこの使節団プログラムに参加するまで、尼崎市とアウクスブルク市の姉妹都市関係をほとんど意識していませんでした。小学校の社会科で耳にした程度で、応募まではすっかり忘れていた状態でした。大学では外国語学部ドイツ語専攻に所属していますが、それでも尼崎市がドイツに姉妹都市を持っているなんて、つゆほども考えていなかったのです。そんな私が応募にたどり着いたのは、大学の連絡掲示板を見た同じ専攻の友達の一言葉でした。「あ、ドイツに

行ける企画がある！でも尼崎市民限定かぁ、残念」それをたまたま耳にした私は、家に帰って尼崎市のホームページを確認、募集要項を発見しました。それが締め切りの 2 日前。あわてて申し込み書類を印刷し、志望動機や調査研究の希望などの欄を埋め終わったのが、締め切りの前日深夜でした。親に頼んで市役所が開いているうちに書類を届けてもらったのが、締め切り当日。これで面接を通過し、使節団員となることができましたので、もう何かの運命的な縁

があったに違いないと思いたくなります。

面接通過の連絡には本当に驚きました。その後は小田公民館や市役所、時に大物公園でのイベントなどで、何度か尼崎とアウクスブルクを知るための研修を重ねました。とても丁寧な研修で、渡航準備のアドバイスもして下さい、初めての海外渡航となる私にとって心強いものでした。

いざ、ドイツへ

ドイツへはドバイでの乗換えを含めて、およそ 20 時間の旅でした。慣れない長時間飛行に疲労困憊かと思いきや、機内ではぐっすり、機内食も平らげて、快適な旅を楽しむことができました。事前の健康管理はとても重要だと感じました。以下、今年度の使節団のスケジュールです。

市表敬訪問

黄金の市庁舎内部は壮観でした。きらびやかな装飾が高い天井までいっぱい施され、神話上の女神や偉人が描かれていました。奥の部屋には姉妹都市からの贈り物が展示されており、尼崎市と長浜市のものも発見しました。写真もたくさん掲示されており、ドイツでさんさんタウンの風景にも出会えました。



アウクスブルク、尼崎、長浜の挨拶が終わり、団員として記名させていただいたときは、使節団の活動がいよいよ始まったのだという気持ちになりました。あわてて書類を埋めた最近の自分が少し懐かしいくらい、非日常的な感覚でした。

ブッペンキステ

ブッペンキステは、アウクスブルクの子どもたちに長年親しまれている人形劇です。つかしんで公演があったそうなのですが、そのときは全く知りませんでした。舞台裏を見せていただくと、人形や小道具、舞台装置、床に書かれた指示メモなどを間近で目にする事が出来ました。



展示室では実際に人形の操作を体験できました。歩かせるだけでも難しく、もっと糸の数が多く人形を複雑に操るといふ、職員の方の技術に驚きました。奥に進むと、過去の名作の代表的シーンが、ガラスケースに再現されているコーナーがありました。どのシーンもとても印象的で、止まっているはずの人形が動いているように見え、セリフまで聞こえてきそうでした。ホストファミリーの家に帰ってこのことを話すと、Youtubeで映像を見せてくれました。ホストファミリーに日本語が出来る方がいたので、通訳してもらいながら楽しみました。ユーモラスでたくさん笑うことの出来るストーリーでした。子供向けの簡単なドイツ語だそうなので、語学の勉強にも活用していきたいです。



市立新図書館

2009年に設立された新しい図書館です。図書館というと、よく言えば落ち着いた、

しかし白い壁に囲まれたやや味気ない空間を想像するかもしれませんが、ここは全く違いました。オレンジで彩られた明るい空間には、大きな窓からたくさんの光が入ります。この図書館は18歳まで無料で利用でき、その他の方は1年で20ユーロの利用料を支払えば、いつでも利用できるのだそうです。貸し出しているのは書籍だけでなく、DVDやCDなどもたくさん取り揃えてありました。子供向けの作品が集められたコーナーもあり、図書館の「子ども・若者たちにもっと本に触れて欲しい」という思いが表現されていました。



日本のマンガも

ダッハウ強制収容所

ナチスのもと多くの囚人たちが収容された、歴史的施設です。負の歴史を克明に伝える多くの資料・遺品を見て衝撃を受けました。送られてきた囚人は、全ての持ち物

を奪われた後、囚人服を与えられます。それにはワッペンがつけられており、政治犯や難民、ホモセクシュアルなど収監理由によって、色分けされました。さらに囚人がユダヤ人である場合には、新たにマークが付けられました。政治犯には室内作業が当てられ、難民やホモセクシュアルには屋外の、より辛い仕事が当てられました。このように囚人間でヒエラルキーが意図的に作られ、徹底した管理が行われたのです。ユダヤ人であれば、より低い階層に置かれやすくなりました。また脱走を図り失敗すると、背中に大きなしるしが付けられ、生存して出所できる確率はさらに下がりました。



囚人の死体を処理する焼却炉

収容所の周囲には鉄線が張り巡らされていきました。当時ここには高圧電流が流されており、脱走を防ぐのはもちろんのこと、絶望した囚人の自殺の手段にもなりました。そのすぐ内側にはおよそ8メートル幅の芝生の部分がありましたが、ここは「中立地帯」と呼ばれていたそうです。しかし「中立」であるはずのこの区域に入った囚人は、即刻射殺されました。収容所側は、囚人を人的資源として最大限利用するため、毎日人数確認を行い、脱走や自殺を許しませんでした。





ノイシュヴァンシュタイン城

有名な観光地ゆえに、多くの外国人の方がいました。ホストファミリーによると、特に日本人が多いとか。なぜそう分かるかと聞くと、写真をずっと撮っているアジア人は日本人だとのこと。確かにカメラが手放せない絶景だったので、「日本人」が多くなるのももっともなのかもしれません。ホストファミリーはここを訪れたことがないそうです。私がUSJに行ったことが無いのと同じでしょうか？



馬車にも乗せていただきました

ドイツ・ボードゲーム

日中のプログラムもとても楽しかったですが、夜ホストファミリーとボードゲームで遊んだ時間も、楽しい思い出のひとつです。まず遊んだのは「怒らないで！」。これはどういうゲームかというと、すごろくの要領で一人4つのコマを進めていき、ボードを一周してゴールの4マスにぴったり辿り着いた人があがり、というものです。しかし他の人のコマが、自分が今いるコマに止まると、自分のコマは追い出されふりだしに戻されてしまいます。ここで怒ってはいけないのがこのゲームなのです。



怒らないで！

別の日に遊んだのは、佐賀県ならぬ「SAGALAND」童話に基づいた世界観のゲームです。ばらばらに配置された木の裏には、

眠り姫の糸車や、長靴をはいた猫の長靴など、童話に関係のあるものの絵が描いてあります。すごろくの要領でコマを進め、木の前のマスに止まったら、裏の絵を見て記憶します。またお城には童話の場面と、木の裏のものと同じ絵が描かれたカードがあります。そしてコマがお城に辿り着いたら、今出ているカードと同じ絵が描いてある木を、指差します。正解していればカードを手に入れることができ、3枚集めた人があがりです。このゲームでもまた、他の人が自分のマスに来れば、ふりだしに戻されます。どちらも根気と運が勝負を決める、盛り上がるゲームでした。



SAGALAND、佐賀県ではない！

歴史的給水施設

アウクスブルクのきれいな水道水を支えているのが、この施設です。地層の力によって水をろ過しており、添加物は使っていないそうです。アウクスブルクはとても水資源の豊富な街で、1~2メートル掘れば水が湧くそうです。しかし浅いところの水は、雨水に混ざったバクテリアが浸透することがあるので、ここでは20メートルまで井戸を掘り、汲み上げています。1.5秒にパス

タブ1杯という豊かな水量を誇るこの施設では、徹底した水質調査を行い、万が一汚染があった場合は緊急消毒できる機構も備えています。氷河時代の水とのことらしく、澄んだ透明度の高い水でした。水の需要の少ない夜間には水を貯蔵し、日中に融通しています。水の需要グラフはだいたい季節ごとに似た形をとりますが、W杯の日は様相が違っていました。ドイツ優勝決定直後の時間帯にグラフが急に伸びているのは、みんなが一斉にトイレに行ったからだそう。白熱する試合を見逃せないのは市民の総意だということが、こんなところからも分かります。

ここまでは最新の設備の見学でした。そばにある展示館では、歴史的給水施設を見ることができました。アウクスブルクに水道が開通したのは1879年で、当時かなり先進的だったそうです。運河による水力発電でエンジンを動かす機構には、諸外国も注目し多く視察に訪れました。電気稼働への転換により1973年に閉じられましたが、当時の機構がそのまま再現された展示を、いつでも間近で見て触れることができます。



展示されている当時の水道設備

送別会

広い会場で使節団員とホストファミリー

が一堂に会し、豪華な食事を食べました。尼崎市と長浜市がそれぞれ日本や地元の文化を紹介する、出し物も行いました。尼崎市は2班に分かれ、私の班は書道体験をしました。準備が大変でしたが、短い時間ながらもドイツの方に楽しんでいただくことができ、とても良かったです。

ホストファミリーとの1日

日中はずっと使節団として様々な視察先を回りますが、この日は1日ホストファミリーと過ごすことができます。ちょうどミュンヘンでオクトーバーフェストが始まっていましたが、ホストファミリーは混雑を避け、私たちをハイキングへと連れて行ってくれました。場所はブライトツハクラムというところで、ひんやりとした岩肌に沿って歩く、心地よいコースでした。谷の裂け目には水が時にゆるやかに、時に激しく流れており、美しい自然を満喫しました。



オーストリアとの国境を越えたり、おいしい山小屋レストランに連れて行ってもらっ

たりと、至れり尽くせりで、本当にホストファミリーには感謝の念しかありません。午後4時ごろには、店の閉店時間が迫る中、ショッピングも楽しみました。

レッカー（おいしい）！

ドイツでの食事の一部です。あまりに美味しく、写真を撮り忘れてしまうほどでした。





お世話になった全ての方へ

Danke schön!